

第34回 神経放射線ワークショップ

茨城県立中央病院放射線科

伊藤 裕太

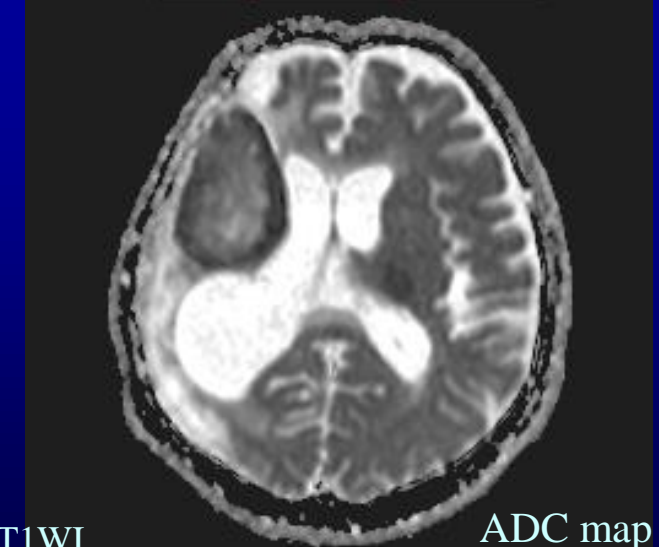
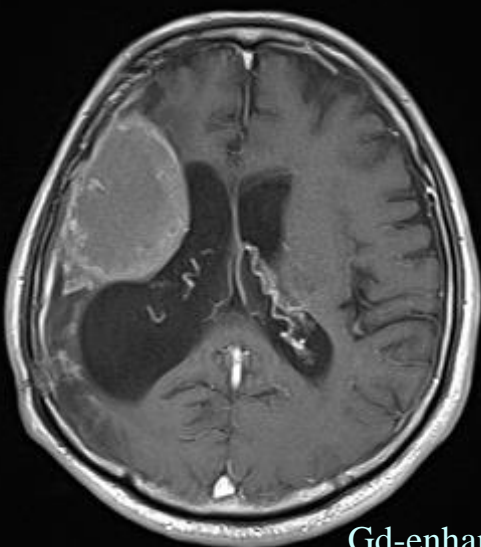
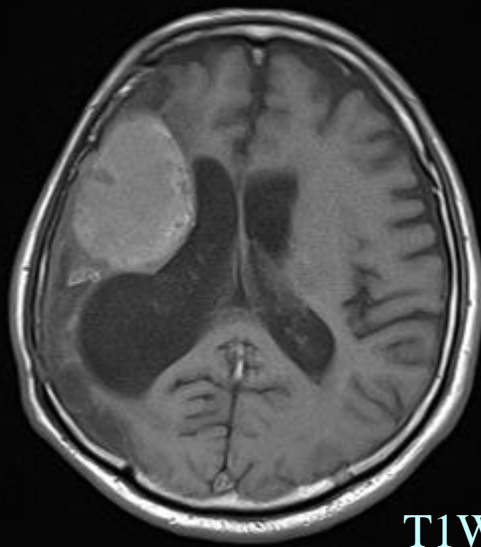
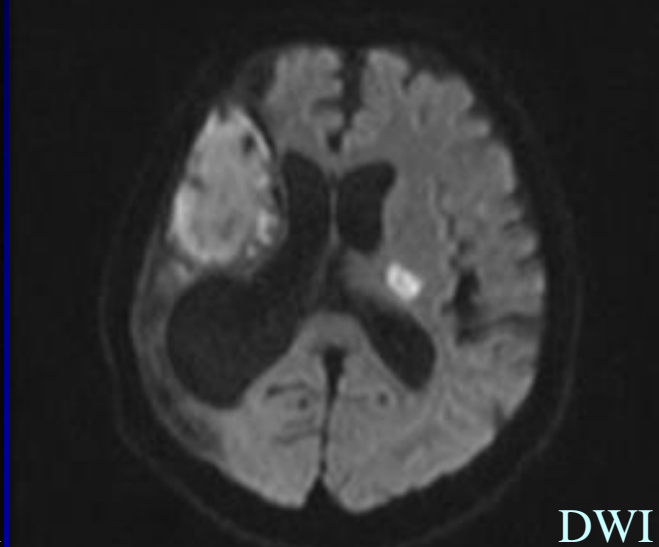
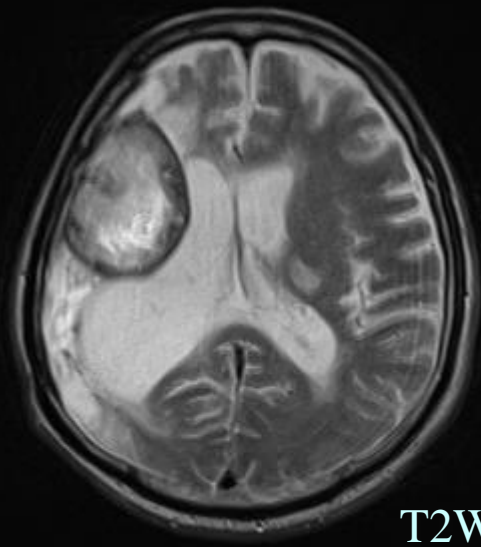
症例

64歳、男性

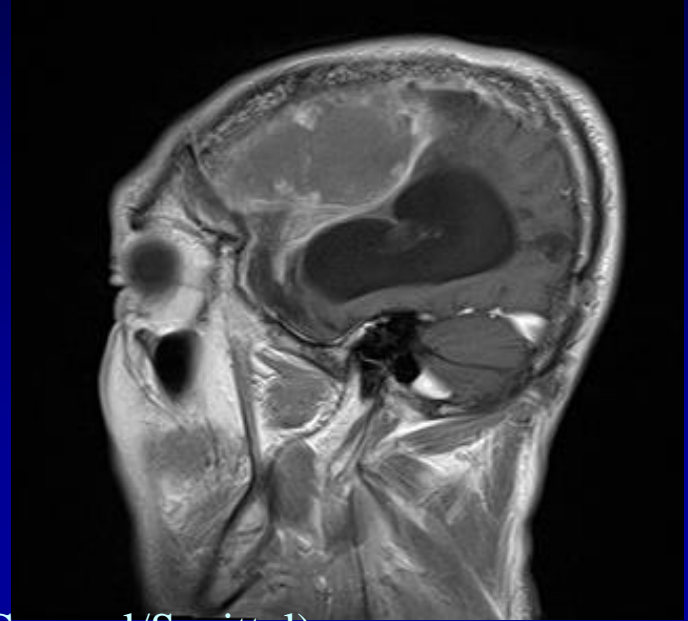
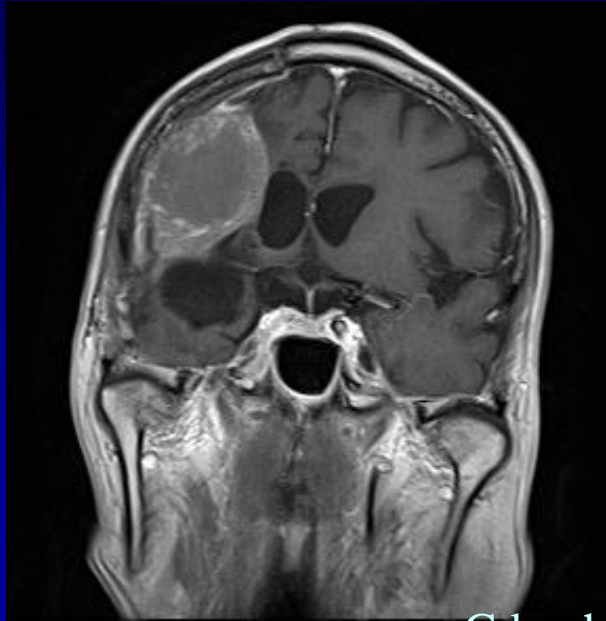
2年前に出血性脳梗塞に対し手術（詳細不明）。
左麻痺が残る。2日前より左手足の痛み。

A 64 year-old man complained left upper and lower limb pain for 2 days. He had a history of craniotomy due to hemorrhagic cerebral infarction 2 years ago, and shows left hemiplegia.

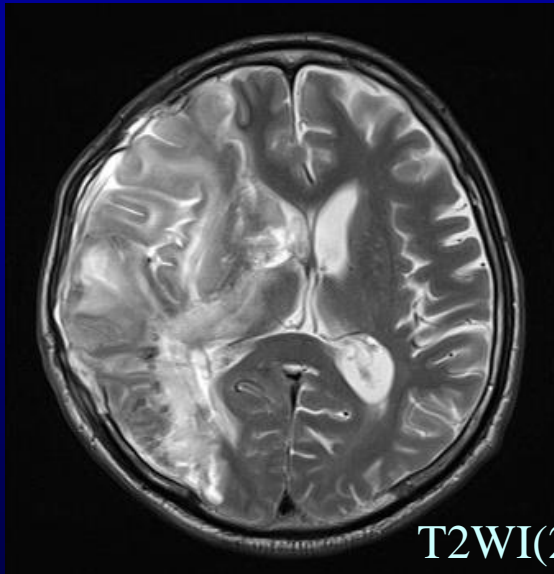
Key images



Key images



Gd-enhanced T1WI(Coronal/Sagittal)



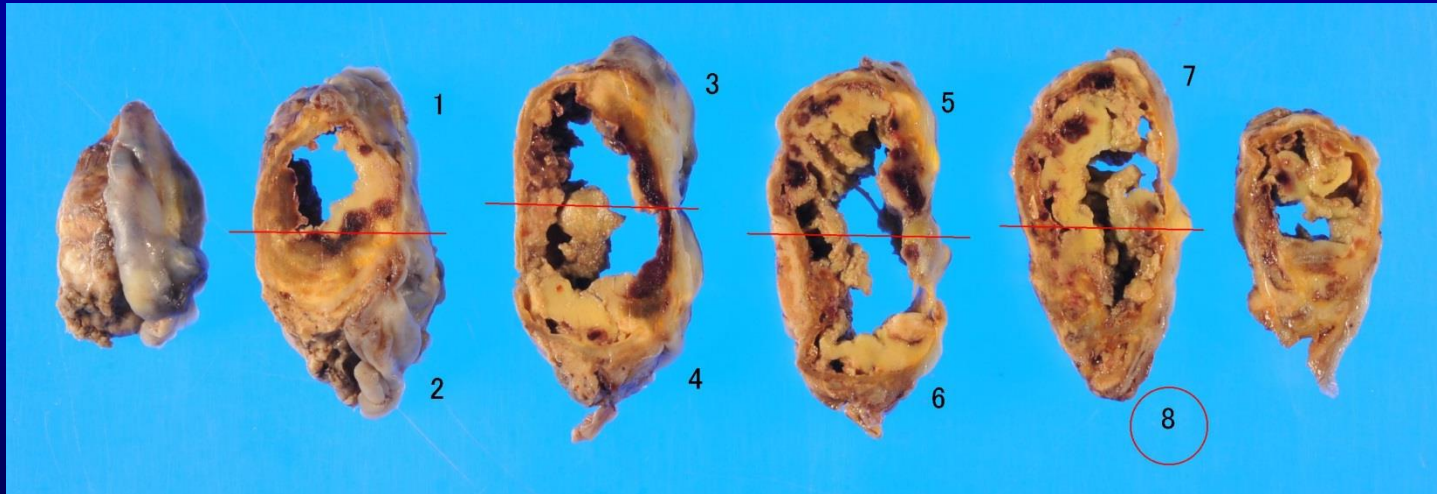
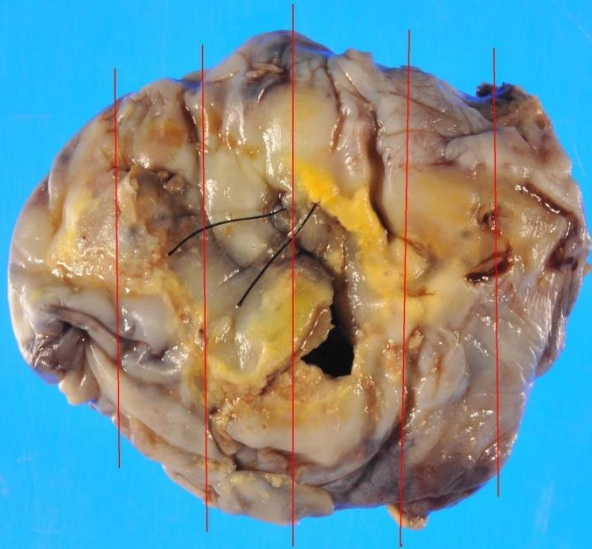
T2WI(2 years ago)

入院後の経過

- 麻痺の痙性が増悪し疼痛を生じていると診断され、筋弛緩薬を投与され、改善した。
- 右前頭部の腫瘍については、急速に増大しているため、悪性度の高い髄膜腫や他の悪性腫瘍が疑われ、切除された。

マクロ像

65*55*26mm



診断

Cystic lesion with necrosis, brain.

- 術後の非感染性の頭蓋内肉芽腫は、手術材料に対する異物反応として生じ、原因となる異物は、止血剤や縫合材料、人工硬膜などの様々なものが報告されている。
- 術後数ヶ月で痙攣や頭痛、水頭症などの症状を来し発見されるが、無症状でフォローアップ中に発見されることもある。
- 画像診断では、MRIのT1WIで低信号、T2WIで不均一な高信号を示す所見が特徴的ではないかという報告がある。残存した止血剤と膿瘍との鑑別にはDWIが有用との報告もある。